

研究テーマ：医学的治療の対象となっていない児の身体運動評価と運動指導方法について ・園と県立広島大学の連携による児の継続的フォローアップ形態の確立・	
研究代表者（職氏名）： 島谷康司（理学療法学科 講師）	連絡先（E-mail 等）： shimatani@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者（職氏名）： 櫻 啓子（社会福祉法人 櫻学園 さくら保育園 園長）	

研究課題

現在，医学的治療対象とならない児（いわゆる“気になる子”）に対する地域支援体制はないが，ニーズは非常に高く，その必要性を強く感じている．我々はこの問題に対して，乳幼児健診後のフォローアップ体制の現状，発達障害児の身体運動能力の評価方法の検討を行い，論文および学会発表にて報告した（平成 19 年度）．

目的

平成 19 年度に引き続いて，以下の 2 つを目的に本研究課題を検証した．

“気になる子”の身体運動評価と運動指導の提案

“気になる子”の継続的支援体制の構築（モデル事業への展開）

対象・方法

対象：医学的治療対象となっていない 5 歳後半から 6 歳前半の年長児 18 名．

方法

運動行動評価

3 種の教示条件を設定し，くぐり動作時の高さの異なる 6 つのバーへの接触頻度を測定

行為の見積もり課題

各種の高さのバーをかがみこむこと無しに通り抜けることができるかどうかを 7m 離れた位置から見積もらせ，正誤を測定

粗大運動能力評価

幼児 6 種目運動能力検査（敏捷性を評価する 25m 走，立ち幅跳び，協調性を評価するボール投げ，連続跳び越し，捕球，持久力を評価する身体支持持続時間）を実施

静的立位時の重心動揺検査

開眼と閉眼の 2 条件について 30 秒間の閉脚立位時の重心動揺を測定

保育士による観察評価

行動観察評価表を用いた観察評価を実施

結果

運動行動評価， 行為の見積もり課題， 粗大運動能力評価

“気になる子”は健常児や発達障害児と比較して有意な差は見られなかった．

静的立位時の重心動揺検査

総軌跡長(LNG),外周面積(EA),重心動揺実効値(RMS),単位軌跡長(L/T),単位面積軌跡長(L/EA),外周面積における閉眼/開眼動揺比(ロンバルグ率)において，“気になる子”は健常児や発達障害児と比較して有意な差は見られなかった．しかし，“気になる子”は閉眼条件において開眼条件と比較して動

揺らぎの大きさ、動揺の速度、動揺のパラッキが大きいことが明らかとなった。

保育士による行動観察評価

保育士にとって“気になる子”は健常児や発達障害児と比較して、行動観察評価にそれぞれ有意な差が認められたが、保護者にはこれらの群間に差は見られなかった。一方、“気になる子”の保護者は保育士と同等に“気になる子”の行動に問題があると評価していることも明らかとなった。

考察

“気になる子”は運動能力や接触回避の行動評価には有意な差は見られないが、静的立位において開眼と閉眼において有意な差が認められることから、視覚有意なバランス状態であり、静的立位が困難であることが明らかとなった。また、保育士が“気になる子”は、“気になる子”の保護者にとっても行動に問題があると思っていることが明らかとなった。

平成19年度からの検証結果を踏まえると、医学的对象となっていない児に対して、就学前の5歳児健診の実施と、健診後にはそのフォローアップを行政と保育園・幼稚園を中心に実施することが望ましいと考える。さらに、当大学が保育園・幼稚園と連携し、保育士主導のもとに定期的な身体運動検査等の実施の支援を行い、その結果をもとに保護者を含めた“気になる子”の継続的なフォローアップによって、保護者-保育園・幼稚園-行政(NPO等含む)-大学が連携を図ることを提案する。

まとめ

本研究から“気になる子”の継続的なフォローアップのためには、5歳児健診が必須であること、定期的な身体運動検査等の実施、保護者-保育園・幼稚園-行政-大学による連携が必要であることが示唆された。しかし、保護者の心情を十分に理解する必要がある。この点に十分配慮して“気になる子”のフォローアップに当たる必要がある。そのためには、発達支援の連携に対する保護者の理解度が最も重要な要素である。今後は、本研究代表者は保護者や保育士等の関係者に対して“気になる子”の発達支援の必要性について啓蒙活動を行い、継続的なフォローアップの実現のために保護者-保育園・幼稚園-行政(NPO等含む)-大学による連携を定着させるためのモデル事業を考えている。

本研究成果

平成19年度（発表論文および学会発表）

- ・島谷康司、清水ミシェル・E、金井秀作、長谷川正哉、小野武也、沖貞明、大塚彰：広島県東部3市における乳幼児健康診査後の支援体制と連携について。人間と科学 県立広島大学保健福祉学部誌、167-172、2008。
- ・島谷康司、関矢寛史、金井秀作、長谷川正哉、田坂厚志、大塚彰、沖貞明：人物描画、肢位模倣からみる幼児の自己身体認識。理学療法の臨床と研究、17、29-34、2008。
- ・島谷康司、金井秀作、長谷川正哉、大塚彰、沖貞明、関矢寛史：軽度発達障害児の運動・行為と人物描画・肢位模倣について。日本発育発達学会第6回大会、2008.3、in北九州市。

平成20年度（学会発表）

- ・島谷康司、関矢寛史、田中美史、長谷川正哉、金井秀作、坂口顕、沖貞明、梅井凡子、小野武也、大塚彰：障害物回避の見積もり能力に関する発達障害児と健常児の比較。第40回日本理学療法学会大会、東京、2009.5。

今後の予定

講演（啓蒙活動）平成22年2月7日 NPO法人もも

講演内容：「保育士が気になる子の粗大運動能力、バランス能力について」

対象：保育園関係の職員及び保育園の保護者等